

編集委員会便り

9月号の特集は「都市とエネルギーシステム」について各分野の専門の方々に執筆していただいた。このテーマは昨年6月の編集委員会で「都市エネルギー関係」を特集として検討してみようとの林委員長の発案でスタートした。当時既に新しい都市づくりのビッグプロジェクトが次々と進展をみせていた。東京湾岸の幕張メッセ（1兆円）、臨海部副都心（4.1兆円）、横浜みなとみらい21（2兆円）等があり、関西も新国際空港（第1期、1兆円）とその周辺事業（1.9兆円）、関西文化学術研究都市（4兆円）等々、地方も夫々の特色ある文化都市づくりが進められており、それに絡むエネルギー問題は時期を得たテーマと考えられた。

昨夏のある日、未定委員（関西電力）に打合せ願い、取敢えず素案を作り、内藤委員（三菱総研）にもご専門の立場での意見を入れていただき執筆項目、執筆者をまとめ上げた。持集名を「都市とエネルギーシステム」とし、考え方としては、大量のエネルギーを利用する都市の現状と将来を見通し、そこで使われるエネルギー供給のあり方を中心テーマとすることとした。都市とエネルギー問題、水資源、電力・ガス、交通、廃棄物、省エネ建築、地下利用、地域冷暖房、ビッグプロジェクトの事例等を候補テーマに採り上げた。

10月度の編集委員会に提案し、12月度に種々の討議がなされた承を得た。しかし紙面の都合で、地域冷暖房は5月号の展望で述べ、ビッグプロジェクトは興味ある課題であるが今回は割愛することに決定した。今回決定のテーマの執筆者が夫々の分野で我が国のトップレベルの方々であり、大変お忙しい中で執筆を願い、特にある方々には面識も無いままに電話で主旨を説明

し、ご了解をいただくことになったが、執筆していただいた皆様に厚くお礼を申し上げる次第です。同時にこのテーマが企画委員会でも採りあげられ、近く開催の講習会を本テーマで実施することとなったが、このことは予測外の喜びであり、今後も執筆者の皆様エネルギー資源研究会に対してご指導、ご交誼を賜りますようお願い致します。

一昨年11月に大阪科学技術センターの海外調査でインテリジェントビルを見て回ったが、香港上海銀行の「今後50年間、世界最高の建物であり続けたい」とのコンセプト、中国銀行の人を惹き付ける際立つた形状で、東洋一の高さを誇る建物、又シンガポール、ラッフルズシティのコンベンションシティとしての機能、6500人収容の国際会議場と附帯の2800室のホテルといずれも都市機能としてのその狙いを果しつつあると感じられた。又昨年、有馬温泉に一泊し、裏神戸のベッドタウンを通り、六甲山頂からの眺望にひたり、新開地の新旧の街並を眺め、ポートアイランドの新都市づくりに触れた時、あらためて時代の変化の激しさを感じざるを得なかった。

今回のテーマが都市の人口集中、スプロール化、様々の公害問題と、エネルギー・資源面での安定供給、有効利用等と幾多の問題解決への示唆を読者の方々が得て戴ければ幸いである。近い内に東京および大阪のウォーターフロントの最前線をエネルギー資源と快適環境を求めて廻ってみたいと思っている。

野田浩男

（久保田鉄工㈱技術開発研究所研究第2部 主席）

